

新規若手農業経営者から見る担い手課題 —農林業センサス世帯員パネルデータの構築—

公立鳥取環境大学 西村教子

京都大学 学術情報メディアセンター 山口幸三

京都大学 学術情報メディアセンター 吉田嘉雄

京都大学 学術情報メディアセンター 仙田徹志

日本の農家数は減少の一途をたどり、経営者や農業従事者の高齢化も進展してきている。日本農業の継続性を鑑みれば、農業法人や集落営農組織などによる組織経営への転換もあるが、イエとしての農業経営の場合は、できるだけ若い年齢層への世代交代が進むことが望ましい。農林業センサスでは、当該経営が家族経営である場合、農業経営者の年齢は把握できるが、それが新たに参入した経営なのか、経営継承によるものなのかは、クロスセクションのデータのみでは、正確には把握できない（仙田徹志ら（2013））。他方、新規就農者については、2007年に始まった農林水産省による「新規就農者調査」があるが、同調査は、新規に農業に就業した者の数を把握することに主眼が置かれているため、新規に就農した者の経営内容や継続状況などを詳細に把握することができない。以上のことから、若い農業経営者の参入・継承経路は多様であるが、農林業センサスのパネルデータが構築されることにより、対象は農家に限定されるものの、実態把握に向けたアプローチは可能となる。

新規就農者の識別と定着率については、池田龍起ら（2013）が、2000年から2010年までの農林業センサスを用いて検討し、西村教子ら（2017）は、農林業センサスによる世帯員パネルデータの構築方法について開発を進めてきている（仙田徹志ら（2017））。農林業センサスのパネルデータが、1995～2015年までに、さらに遡及、延長されたことをふまえ、本報告では、2000年以降の若手農業経営者を抽出し、その後の継続状況や特性について、農林業センサスから把握しようとするものである。その際、2000年から2005年にかけて農林業センサスは、大幅な改正が行われていることから、その改正についても、十分に配慮を行いつつ、抽出を行う。

【参考文献】

池田龍起・島田依佐央・吉田嘉雄・齊藤昭・仙田徹志（2013）「第7章 農林水産統計の二次的利用」、齊藤昭編著『「農」の統計にみる知のデザイン』pp.289～306, 農林統計出版。

仙田徹志・島田依佐央・吉田嘉雄（2013）「農林業センサスにみる経営継承」『農業と経済』79(6), pp.44～55.

西村教子・仙田徹志・吉田嘉雄（2017）「農林業センサスにおける世帯員パネルデータの構築実験」Working Paper Series 6, pp.1-14, 京都大学学術情報メディアセンター。
(<http://hdl.handle.net/2433/229162>)

仙田徹志・西村教子・吉田嘉雄（2017）「農林業センサスの高度利用：世帯パネルから世帯員パネルへ」『農業と経済』83(5), pp.71-80.

〔付記〕本報告は、京都大学寄附講座「農林水産統計デジタルアーカイブ講座」におけるプロジェクト研究、ならびに、JSPS 科研費（課題番号：19K02080、17H03881、18K05846、18K19247）における研究成果の一部である。